

抄録

「ゲルスペーサーの研究と臨床応用、それまでに支えてくれた素晴らしい人達」

社会医療法人北斗 北斗病院 放射線治療科 岸 和史

抄録

今回はゲルスペーサーの研究と臨床応用、それまでに支えてくれた素晴らしい人達というタイトルでお話させていただきました。放射線治療でのスペーサーゲルの利用を放射線を照射する標的から小腸など放射線感受性の高い臓器を引き離すための安全な手段として開発してきました。北斗病院での2013年8月以降のゲルスペーサーありのS群60例と2012年-2013年7月のゲルスペーサーなしの対照群36例を比較した中間解析結果: 平均PTV総線量はC群73.6GyE. S群82.4GyE, 直腸D2ccはS群36.5GyE(対照群74GyE)、晩発性直腸障害の発生はS群は予測率0%、直腸障害又はG2以上の他の障害の発生含めB群で280日(38-598)経過時点で発生なし(対照群は+290日で5/36(14%))($P<0.01$)。280日はほぼ晩発性障害の発生のプラトーに近いと評価可能と考えれば、中間解析結果はゲルスペーサーの利用で晩発性直腸障害発生の制圧と必要な高線量の投与とを同時に果たせたといえます。この治療効果比の改善率は(他文献で10%台等が多いのに対して)250%程度です。そのほかにも他の様々な部位でのスペーサーゲル利用例を紹介させていただきました。最後に私の限られた経験の中で出会った女性のリーダー達を紹介させていただきました。実際にあるいは心の中で師事した女性放射線治療医や基礎医学者達を紹介し、その人たちへの私の尊敬や、あと、会員の皆様一人ひとりが安心してより大きな尊敬の対象になってほしいという、私の思いが伝われば幸いです。